

排水の濁度・pH同時処理

ワイビーエム 土木工事の泥水など

「佐賀」ワイビーエム（佐賀県唐津市、吉田力雄社長、09555・771121）は、水素イオン濃度（pH）・濁水処理兼用装置「AMT-30」（写真）を発売した。土木工事で排出される泥水などを、排出可能なpH・濁度に合わせて処理して排水を扱う」という。販売、施工を請け負う企業も募る。



従来の濁水処理装置にアルカリ排水連続中和装置「NC-30」を内蔵し小型化した。価格は920万円。基礎工事業者やゼネコンなどに、初年度20台の販売を見込む。同装置は処理水の目標

水関連ノウハウに強

ウがあり、アドバースも含め対応できる」のが同社の強み。「水関連分野は今後増えていく。自社の技術を生かせる部分も多い」と城野社長は期待する。（佐賀）

▽社長＝城野清治氏▽所在地＝佐賀県伊万里市瀬戸町2269の53、0955・233・2266▽資本金＝1000万円▽売上高＝約3億円（10年5月期見込み）▽従業員＝12人▽創業＝88年（昭63）2月

修理を強化

レーザー溶接機で精度向上

可能台数を増やす。投資額は約1600万円。主要顧客の自動車用樹脂部品メーカーで金型修理が増えているため。修理事業の売上高は2012年4月期までに10年4月

画面に書いてウェブ会議

サウンドウオーク・低価格システム開発

【名古屋】サウンドウオークジャパン（名古屋市中区、加藤匠社長、052・242・5480）は、クロススクローバ（同、奥村典弘社長、052・526・0705）と共同で、複数人が同時に接続できる低価格



をめぐに本社工場にもレーザー溶接機を1台設置する。金型の微細な溝の欠けや減りを、肉盛溶接で補修する。同社は今までガス溶接機で金型を修理していた。レーザー溶接機の導入でより精密な金型の補修がしやすくなる。樹脂用金型だけでなく、ダイカスト金型も修

薄れる強み

別の問題も生じていた。会社規模が拡大するにつれ分業化が進み、顧客の生の声が聞けない。さらに、各人の責任と権限が明確にならな

社会とリンク

自社の事業と社会活動がリンクしていかなくてはならないと分析。そこで考えた新事業が、防災グッズ

情報 Dマシ

◆雇用管理改善で「雇用・能力開発機構」を設立。2011年10月1日からは、大宮ソニックシティで「雇用管理改善セミナー」を開く。「改正育児・介護休業法の実務」をテーマに、改正のポイントを解説する。講師は福祉社会保険労務士事務所「福家秀夫所長」定員40人。参加無料。問い合わせは同センター（0488・882・4098）へ。

ースだけを、
にお届け

Newsウエー



経済団体の役員に就任した。逆立った。当時、南関東営業所の営業担当者だった島辺直樹は

効果化を進める一方で、ウェブ会議システムなどIT投資を積極的に行い、社内情報の共有化を図った。

▽「起業した時、社会的、事業性、独創性を